

外国語

中橋 弘高

田中 里美

石川 理恵

研究協力者 滝沢 雄一（金沢大学）

1. Society5.0に向けた教育を進めるに当たって

新学習指導要領における外国語の目標は、実際のコミュニケーションの場で活用できる知識・技能を身に付けること、コミュニケーションを行う目的や場面・状況などに応じて、日常的・社会的な話題について表現したり伝え合ったりできるようになること、コミュニケーションの対象となる相手に配慮しながら、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養うことである。新学習指導要領解説では、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目標としている。さらに、英語を聞くこと、読むこと、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くことの4技能5領域別に目標が設定され、具体的な言語活動や言語の使用場面・働き等が記されている。

本校の英語科では、教科の目標の実現のために、近年3学年間を通じた授業冒頭で行っている即興での対話活動と年間約3回の発表活動を重視して取り組んでいる。1時間の授業や1つの单元だけでは、教科の資質・能力は容易に身につかないと考えるからである。また、生徒が英語で対話をしたり発表したりする機会を持つことは、学校以外ではなかなか難しいため、意義がある活動であるととらえている。即興での対話活動は毎時間継続し、1年生では50秒～70秒、2年生では70秒～100秒、3年生では100秒～120秒と学年により段階を踏んだ時間設定をしている。対話後には、生徒はさらに相手を変えて全体の前で対話をしたり、対話についての質問に答えたり(Q&A)、対話からわかったことをまとめて報告したりしている。また、今年度より2・3年生では、80～100語程度の長文を読んで理解したことを踏まえた意見交換(discussion)もしている。

本校では研究主題に基づき、Society5.0を主体的に生きるための10の資質・能力を定めている。その中でも、英語科では特に、「デザイン思考」「多様性の尊重」「論理的思考」「イノベーターのマインドセット」「対話する力」を全学年共通の資質・能力として育成することを目指す。その理由として、世界には多様な文化や考えを持つ人がいることを理解した上で（「多様性の尊重」）、英語で意欲的にやり取りをすること（「対話する力」）や英語で自ら新しいものを提案したり創造したりすること（「デザイン思考」）で学びを深めて論理的に発表し（「論理的思考」）、たとうまくいかなくても次の解決策を考えて前進すること（「イノベーターのマインドセット」）が英語の学習において実現可能であると考えからである。

英語の教科書では、「国際・異文化理解」「世界平和」「人権・福祉」「環境」など社会的な諸課題について考える題材が扱われており、実社会と幅広くつながりがある。ただ、実社会での問題解決能力を育成するためには、授業で実際の場面を想定して考える機会が必要である。これまで英語科では、必ずしも社会的な諸課題について考える自然な場面を十分に設定できていたとはいえない。そのため今年度は、コミュニケーションの場面設定を工夫していくとともに、生徒が創造的に思考・判断・表現ができる場を意図的に授業に仕組んでいきたい。

2. 資質・能力の育成に当たって

(1) 教科等として育成する資質・能力について

英語科では、コロナ禍の年度当初に、3学年一斉にアンケート調査を実施した。これは、昨年度までの生徒の英語学習に対する意識調査で、本校が定める Society5.0 を主体的に生きるための資質能力と英語の資質・能力の実態を把握するためのものである。結果は、以下の表の通りである。

表 英語の学習アンケート調査 (2020.4) 「(とても) そう思う」「まあまあそう思う」と答えた生徒の割合

質問項目	1 年生 4 月	2 年生 4 月	3 年生 4 月
①英語の授業で学習したことは将来役に立つ	97% (82%)	94% (77%)	97% (83%)
②英語の授業でやり取りする力や発表する力がついた	90% (40%)	90% (47%)	95% (46%)
③英語の授業で自分の考えや気持ちを話したり、書いたりして伝えることができるようになった	88% (41%)	86% (43%)	96% (44%)
④英語で新しいことに挑戦したり提案・企画したりしてみたい	88% (43%)	73% (37%)	82% (44%)
⑤英語で外国人と直接会って対話（会話）をしてみたい	82% (53%)	79% (51%)	81% (50%)
⑥海外に住む人と英語で交流（メール、手紙、テレビ電話）してみたい	83% (48%)	78% (45%)	80% (51%)

() 内：「(とても) そう思う」と答えた生徒の割合

質問項目①のアンケートの結果より、本校の生徒たちは、英語の授業で学習している内容は、実社会とつながっていると感じている割合が総じて高いといえる。実際、生徒たちは英語の学習全般において意欲的で、筆記テストのみならず、普段の授業での活動や課題・作品、パフォーマンステストなどでも力を発揮しようと努めている。

質問項目②③は、本校が定める資質・能力の中では「対話する力」「論理的思考」に関連している。また、生徒が英語の授業を通して、実際に英語で表現したり伝え合ったりできるようになったと感じているかを尋ねる設問である。先でも述べた授業での対話活動や発表活動などを通して、生徒たちは話すこと〔やり取り〕〔発表〕の力が身についていると感じているようである。実際に生徒の話す〔やり取り〕力の推移を特に把握するため、今年度より ALT の協力のもと、スピーキングテストを全学年で年 2 回（今年度は 8 月と 12 月）実施する予定である。

質問項目④～⑥は、本校が定める資質・能力の中では「イノベーターのマインドセット」に、さらに④は「デザイン思考」「論理的思考」、⑤⑥は「多様性の尊重」にも関連している。英語の 4 技能 5 領域を駆使して、実践的にコミュニケーションを図ろうとする態度があるかを知るための設問でもある。本校の生徒たちは、他の生徒と意見に違いがあることを理解しており、授業での対話や発表でも各々の意見を伝え合っている。また、⑤⑥より異文化の相手を対象に対話や交流をしたいと望んでいることから、多様性を尊重する姿勢（「多様性の尊重」）が少なからずあるととらえている。しかし、その内容を深めたり、根拠や理由を述べたりするなどの「論理的思考」についてはまだ十分とは言えない。また、質問項目①～③に比べて、質問項目④～⑥に否定的な意見が若干多いのは、新しいことに挑戦したり提案・企画したりすることに抵抗感を持っている生徒がいるからではないかと考える。つまり、本校の生徒には、新しいことを論理的に提案・企画し、間違えても前進することを躊躇うところがあると推測でき、また、そのような様子が普段の授業からもうか

がえることがある。そのため、本校の生徒は、「新しいことを論理的に提案・企画し、間違えても前進することを躊躇うところがある」ことを課題として捉え、これまで同様「対話する力」「多様性の尊重」の育成を図りながら、「デザイン思考」「論理的思考」「イノベーターのマインドセット」も育成する授業実践に取り組んだ。

今年度1年生では「ウィズコロナ時代の中、附属中前に出店を計画している弁当店が、アイデアを募集しています。どんなメニューがよいか考えて提案しよう」、2年生では「アフリカの子どもたちのためにレッドカップキャンペーン商品を企業に提案しよう」、3年生では「実社会で活用できるエコ商品を作ろう」などの授業の課題を設定した。こうした実践を踏まえて、12月に生徒の意識がどのように変化したかをアンケートなどから比較検討したい。

(2) 関連・連携を図った教科等について

- ・1年生では、「ウィズコロナ時代の中、附属中前に出店を計画している弁当店が、アイデアを募集しています。どんなメニューがよいか考えて提案しよう」という課題の授業を実践した。ランチメニューを考案する当初の段階において、マッピングを用いながら、顧客のニーズを基盤にアイデアを創出する学習活動がある。その際に、1年生の家庭科で学んだ「食品群に関する知識」や「食事の文化的側面に関する知識」を活用し、顧客の希望に沿って論理的に思考し、解決策を提案できた。
- ・2年生では、「アフリカの子どもたちのために、レッドカップキャンペーン商品を企業に提案しよう」という課題の授業を実践した。以前に生徒が独自に考案した校内チャリティイベントでレッドカップキャンペーン商品を販売するという設定で、新たにWFP（国連）のレッドカップキャンペーン（学校給食支援）に賛同してもらえよう、実在する地域の企業に対して提案文を書きプレゼンをした。今後は、校内掲示や学校HPなどでも公開する予定である。1年生の社会科（地理）で学んだ「アフリカの課題と展望」を受けて、アフリカの課題に対して論理的に思考し解決策を提案できた。
- ・3年生では、現代社会における環境問題対策をテーマとして、「実社会で活用できるエコ商品を作ろう」という課題の授業を実践した。江戸時代におこなわれていたエコ活動を知り、現代に適した環境問題対策を考えた。社会科全学年「環境やエネルギーに関する課題」の単元では、世界や日本国内における環境問題について学習できた。そこに、理科2年生「消費電力について」で学んだ、今後の生活における節電の知識を取り入れることで、現代社会に適した環境問題対策を考案することができた。

1年 単元名「Program 8 Origami」

単元計画（9時間扱い）本時は7時間目

次	時	学習内容・ねらい（■） 主な活動等（丸数字）	評価規準・手立て（○） 指導上の留意点（・）	他教科等との連携・本校が定める Society5.0 を主体的に生きるための資質・能力
1	1	■助動詞を用いて、自分のできることを表現し合う。 ①ペアでできることを話し合う。 ②話し合った結果を別の人に伝える。	○助動詞を用いて、自分のできることを積極的に伝えようとしている。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】	
	2	■折り紙で作った人形についての大介のスピーチ文を、聞いたり読んだりして、内容を理解する。 ①登場人物の次の発言を予測し、表現する。	○書かれている内容を正しく理解することができる。 【外国語理解の能力】	
	3	■級友に関する情報を集めるために、助動詞を用いてできることやできないことをたずねる。 ①級友に関するクイズを行う。 ②助動詞を用いて質問する。	○必要な情報を集めようと、助動詞を用いて、相手にできることをたずねることができる。 【外国語表現の能力】	
	4	■折り紙についての大介とマイク、ウッド先生の対話文を、聞いたり読んだりして、内容を理解する。 ①登場人物の次の発言を予測し、表現する。	○書かれている内容を正しく理解することができる。 【外国語理解の能力】	
	5	■疑問詞を用いて、自分の通学方法および居住地について表現し合う。 ①ペアで距離や通学法について話し合う。 ②話し合った結果を別の人に伝える。	○疑問詞を理解し、通学方法をたずねることができる。 【外国語表現の能力】	
	6	■折り紙との出会いについてのウッド先生と日本人女性との対話文を、聞いたり読んだりして、内容を理解する。 ①内容を受けて登場人物に手紙を書く。	○書かれている内容を正しく理解することができる。 【外国語理解の能力】	
2	7 本時	■ウィズコロナ時代に合った弁当店のメニューを考案し、ポスターを作って提案する。 ①マッピングでアイデアを練る。 ②対話やリスニングでアイデアを磨く。	○考えと根拠を的確にまとめ、弁当のメニューについて説得力のあるポスターを書くことができる。 【外国語表現の能力】	（家庭：衣食住の生活） 「デザイン思考」 「論理的思考」
	8	■ポスターを作成する。	○効果的なポスターを作成できる。【外国語表現の能力】	「デザイン思考」 「論理的思考」
	9	■作成したポスターを使ってグループ内でアイデアを発表し合う。 ①セールスポイントが聞き手に伝わるようにグループでプレゼンテーションをする。	○意欲的にポスターでアイデアを提案している。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】	「対話する力」 「多様性の尊重」
	後日	前時で作成したポスターを掲示し、相互評価する。		

実践事例

英語 1 年

授業者	中橋 弘高	授業日	10月29日（木）
授業クラス（時限）		関係・連携の考えられる教科等と学習内容	
1年3組（4限）		家庭「衣食住の生活」	
Society5.0を主体的に生きるための資質・能力		教科等で身に付けたい資質・能力	
・デザイン思考 ・論理的思考		・考えと根拠を的確にまとめ、弁当のメニューについて説得力のあるポスターを書くことができる。【外国語表現の能力】	
実社会とのつながり			
新型コロナウイルスの拡大により、経済が停滞している現状において、飲食店経営者として顧客のニーズを探り、サービスとして実現化する場面設定を通して、前例のない問題や未知の課題に対し、最もふさわしい方策を論理的に考えながら課題解決力を養うことができると考える。			
本時の授業のねらい			
自らの考えとその根拠を的確にまとめ、出店者に賛同を得られるポスターを書く。			
授業の流れ・活動等			時間
1. 前時までの復習 ・ピクチャーカードを用いて町紹介について、前時の復習をする。 ・学習ゴールを確認する。 課題 ウィズコロナ時代の中、附属中前に出店を計画している弁当店が、アイデアを募集しています。どんなメニューがあるとよいか考えて提案しよう。			5分
2. 個人でのブレインストーミング ・マッピングを用いてメニューについてアイデアをまとめ、セールスポイントを3点に絞る。 ・顧客視点からアイデアを練る。			10分
3. 即興対話① ・考案したメニューについてペアで即興対話をする。 ・対話の結果、内容や表現など必要な情報があればマッピングに付け加える。			5分
4. 内容の再構築 ・学年担当の先生方による「理想のランチメニュー」に関する英文を2回聞く。一度目はメニューの内容、二度目は英語の表現に注意を向けて聞く。 ・聞いた英文のスク립トを配布し、使えそうな英語表現の参考にする。 ・内容や表現などの参考になる情報をマッピングに付け加える。			10分
5. 即興対話② ・再考したマッピングを基に、ペアを変えて伝え合う。 ・対話の結果、必要に応じてマッピングを修正する。			5分
6. ポスターを書く ・伝えたい情報を文字のサイズやレイアウトで表現する。			10分
7. 振り返り ・本時の振り返りを書く。			5分

2年 単元名「If You Wish to See a Change」

単元計画（11 時間扱い）本時は9 時間目

次	時	学習内容・ねらい（■） 主な活動等（丸数字）	評価規準・手立て（○） 指導上の留意点（・）	他教科等との連携・本校が定める Society5.0 を主体的に生きるための資質・能力
1	1	■するのが楽しいことを1つ紹介する。 ①動名詞を使ってするのが楽しいことを話す。 ②するのが楽しいことを1つ紹介する。	○続けていることであるのが楽しいことを話そうとしている。【関心・意欲・態度】	
	2	■セヴァン・スズキの伝説のスピーチを視聴して学んだことを伝える。 ①教科書本文の内容を読み取り音読する。 ②スピーチの映像で感じたことを話し合う。	○スピーチで感じたことを話そうとしている。【関心・意欲・態度】	（理科：地球環境問題）
	3	■今年有名になった人（もの）について話す。 ①look (become) 形容詞で感じたことを話す。 ②今年有名になった人（もの）について書く。	○今年有名になった人（もの）について英語で話している。【外国語表現の能力】	
	4	■大人になったセヴァンが訴える課題から、身近な輸入品について考える。 ①教科書本文の内容を読み取り音読する。 ②世界からの輸入品についてまとめる。	○身近な輸入品について書いている。【外国語理解の能力】 ・アフリカからの輸入品の多さに気づかせる。	（社会：アフリカの課題と展望）
	5	■誕生日に誰に何をあげるかを書く。 ①give を使って誰に何をあげるかを話す。 ②大切な人への誕生日プレゼントを考える。	○大切な人へのプレゼントを英語で書くことができる。【外国語表現の能力】	
	6	■世界の貧困問題のために自分たちにできることを考える。 ①教科書本文の内容を読み取り音読する。 ②世界の貧困問題の現状について話し合う。	○自分たちにできることを考えている。【外国語理解の能力】 ・WFP (国連) のレッドカップキャンペーンを思い出す。	（社会：アフリカの課題と展望）
2	7	■教科書の内容を自分の言葉で伝える。 ①内容をペアに retelling し、質問に答える。	○本文の内容を自分の言葉で伝えている。【知識・理解】	
	8	■レッドカップキャンペーンを提案するのに適した企業と商品を考える。 ①県内の企業をタブレット端末で調べる。 ②チャリティイベントとキャンペーンへの賛同を依頼する企業と商品を決める。	・Program3 で考えた附属中独自のチャリティイベントと関連させる。 ○目的に合ったものを調べようとしている。【関心・意欲・態度】	「デザイン思考」
	9 本 時	■アフリカの子どもたちのためにレッドカップキャンペーン商品を企業に提案する。 ①ペアで理由を述べながら提案する企業と商品についてやり取りする。 ② 目的と企業理念を踏まえた提案文を書く。	○企業と商品について、説得力のある提案文を書くことができる。【外国語表現の能力】 ○提案文が書きやすくなるよう参考英文や対話を入れる。	（社会：アフリカの課題と展望） 「対話する力」 「論理的思考」
	10	■企業への提案プレゼンを聞いて質問する。 ① 班内でプレゼンをし、即興で質問し合う。 ② 代表生徒は発表後 ALT の質問にも答える。	○プレゼンを聞いて、即興で質問している。【外国語理解の能力】	「対話する力」 「イノベーターのマインドセット」
	11	■キャンペーン商品の宣伝のためのチラシ（広告）を作成する。	○効果的なチラシを作成できる。【外国語表現の能力】	「デザイン思考」

実践事例

英語 2 年

授業者	田中 里美	授業日	10月30日（金）
授業クラス（時限）		関係・連携の考えられる教科等と学習内容	
2年1，2組（3，4限）		社会（アフリカの課題と展望）	
Society5.0を主体的に生きるための資質・能力		教科等で身に付けたい資質・能力	
・対話する力 ・論理的思考		・自分が選んだ企業と商品について，理由などを入れて説得力のある提案文を書くことができる。【外国語表現の能力】	
実社会とのつながり			
海外から輸入しているものは身の回りにたくさんあり，教科書ではアフリカ産のカカオ（チョコレート）などがあげられている。生徒が以前の単元で企画した本校開催のチャリティイベントとアフリカなどの子どもたちの給食を支援するWFP（国連）の取り組み（レッドカップキャンペーン）をつなげ，イベントでレッドカップキャンペーン商品を販売してくれる企業に提案するという設定とした。レッドカップキャンペーンの対象商品が日本の店頭などで実際に売られていることに触れ，生徒は事前の企業調べと商品調べを通して，企業への提案文を考える。班やクラスで企業に向けたプレゼンをし，聞き手は企業の経営者になったつもりで質問をする。提案文は校内に掲示したり学校のHPなどで公開する。			
本時の授業のねらい			
チャリティイベントでレッドカップキャンペーン商品を販売する企画に賛同してもらえるように，企業に向けた提案文を書く。			
授業の流れ・活動等			時間
1. あいさつ			2
2. レッドカップキャンペーンに賛同してくれる企業について対話をする。レッドカップキャンペーンの対象商品に適した商品やその企業を選んだ理由も伝え，疑問に思ったことは互いに質問し合う。（普段の授業の即興対話活動として行う）			4
課題：アフリカの子どもたちのために，企業にレッドカップキャンペーンに賛同してもらえるように提案しよう！			1
3. 企業（代表者）が提案で求めること（対象商品を選んだ理由，レッドカップキャンペーンの目的，企業理念に沿っているか）を書いた手紙を読む。提案で必要と思われる語句などを載せておく。			3
4. 企業からの手紙をもとに，提案内容を整理して企画書を書く。タブレット端末で必要な内容を調べる。			12
5. 企画書をもとに，企業に提案する内容を，立場を変えて互いに伝え合う。			4
6. 全体場で数名が教師（企業の代表者）からの質問に答え，考えを共有する。			3
7. 表現や伝え方など工夫しているところをもとに，タブレット端末でさらに調べ，企画書を再度修正する。			3
8. 企画書をもとに，違う相手とも企業に提案する内容を互いに伝え合う。			3
9. 実在する企業に向けた提案文を書く。			13
10. 今日の授業を振り返り，気づいたことや感じたことなどを書く。			2

3年 単元名「Program3 The 5 Rs to Save the Earth」

単元計画（10時間扱い）本時は8時間目

次	時	学習内容・ねらい（■） 主な活動等（丸数字）	評価規準・手立て（○） 指導上の留意点（・）	他教科等との連携・本校が定める Society5.0 を主体的に生きるための資質・能力
1	1	■日本のゴミ問題について考えてみよう。 ①本文を読む。 ②本文の状況の改善策を考える。	○教師の英語を聞いたり、本文を読んだりして、本文の概要を理解できる。【外国語理解の能力】	（社会：環境やエネルギーに関する課題）
	2	■自分にとって面白いことを言うには？ ①it is 形 for me to の文法を理解する。 ②自分のことについて表現する。	○文構造を理解し、用いることができる。【言語や文化についての知識・理解】	
	3	■4つめの R は、何だろう？ ①refuse の利点を本文から読み取る。 ②自分の生活に置き換えて考える。	○教師の英語を聞いたり、本文を読んだりして、本文の概要を理解できる。【外国語理解の能力】	
	4	■英語での言い方を尋ねるには？ ①how to 動の文法を理解する。 ②和製英語の英語が言えるか、ペアで尋ねあう。	○文構造を理解し、用いることができる。【言語や文化についての知識・理解】	
	5	■5つめの R は、何だろう？ ①repair の利点を本文から読み取る。 ②自分の生活に置き換えて考える。	○教師の英語を聞いたり、本文を読んだりして、本文の概要を理解できる。【外国語理解の能力】	
	6	■相手に何かを頼む表現は？ ①ask 人 to 動の文法を理解する。 ②自分のことについて表現する。	○文構造を理解し、用いることができる。【言語や文化についての知識・理解】	
2	7	■実社会に活用できる商品を考案しよう。 ①班になり、どの環境問題対策を考える ②商品のアイデアを出し合う。	○実社会にある環境問題点を挙げ、解決策を考えようとしている。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】	「デザイン思考」 「論理的思考」
	8 本 時	■聞き手に伝わる発表になるよう、工夫し、練習しよう。 ①タブレット端末を使用し、練習する。 ②班で意見を出し合い、再構築する。	○聞き手にとって理解しやすい表現を用いて、発話している。 【外国語表現の能力】 ・読みづらい語句や英文には、聞き手に伝わるよう、語句のまとまりを意識させる。	（理科：消費電力について） 「デザイン思考」 「対話する力」
	9	■オリジナルエコ商品を紹介しよう。 ①班で作成した商品について、紹介する。 ②聞いている生徒は、発表者に質問をすることができる。 ③一番買いたいと思った商品に投票する。	○発表者の英語を聞き取り、理解することができる。 【外国語理解の能力】 ・発表前に練習の時間を確保する。	「論理的思考」 「多様性の尊重」
	10	■エコ商品ポスターを作成しよう。 ①担当箇所の説明文を書く。 ②画用紙に貼りつけ、仕上げる。	○読み手にとって理解しやすい表現を用いて、書いている。 【外国語表現の能力】	

(実践事例)

英語 3 年

授業者	石川 理恵	授業日	9月 28日 (月)
授業クラス (時限)		関連・連携の考えられる教科等と学習内容	
3年1組 (2限)		社会 (環境やエネルギーに関する課題) 理科 (消費電力について)	
Society5.0を主体的に生きるための資質・能力		教科等で身に付けたい資質・能力	
・デザイン思考 ・対話する力		・自分の考えを伝えたり, また, 班員の意見を聞き, それらを1つにまとめる作業を通して, 相手の気持ちを考えながら対話する力を養うことができる。 【外国語表現の能力】	
実社会とのつながり			
・環境問題だけにとどまらず, 自分たちの日常生活で感じている困ったことをヒントにすることで, 実社会に関わった解決策を見出すことが期待される。 ・英語で発信 (発表) することで, 日本以外の人たちにも情報を提供することができる。			
本時の授業のねらい			
・次時の発表に向けて, 相手に伝わる発表の仕方を考え, 練習を重ねる。未習語句を既習語句や文法に言い換えて相手に伝えることに重点を置かせる。			
授業の流れ・活動等			時間
本時の流れ (第4次)			
1 あいさつ ・本時の活動内容の確認。 ・相手に伝わる発表を意識させる。 ・各班に1台タブレット端末を配布し, 撮影と見直しを繰り返して, 発表の質を高める時間であることを伝える。			2
2 練習 ・タブレット端末で撮影した動画を発表者自らで確認し, 自分たちの発表を客観的に見直す。 ・班員は, 伝えるための発表になっているかを確認する。(視覚効果, 発表者の英語, 未習語句を使用した場合の工夫, タイミングなど)			25
3 再構築 ・班員から指摘があった部分を見直し, 班員で再構築し, 練習する。			20
4 次時の確認 ・あいさつ			3